

## ご挨拶

世田谷区教育委員会 教育長 渡部 理枝

---

令和4年度 第39回東京都中学校美術教育研究大会第2ブロック世田谷大会が開催されますことを、心からお祝い申し上げます。

本研究大会において、「生き方につながる美術教育」を大会主題に掲げ、子どもたちが感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことを通して、一人一人が思い描く未来を実現することを目標とされていることは、誠に意義深いことでもあります。

また、美術科教員自らが相互の連携を図り、授業力向上のための研修の実施や実践的な研究を行い、その成果を広く発信し、広く美術教育の充実・発展に寄与する本研究会の方針は、これからの時代に生きる生徒に必要な資質・能力の育成に向けた授業改善の着実な推進につながると考えます。

本大会の成果が東京都全体に広く共有され、今後の美術科教育の充実に大きく寄与することを心より期待しております。

最後に、本研究大会の開催にあたって、ご尽力いただいた多くの先生方や関係者の皆様、またご指導を賜りました講師の方々に感謝を申し上げますとともに、大会の成功と本研究会のますますのご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

東京都中学校美術教育研究会 会長（昭島市立瑞雲中学校長） 山下 久也

---

第39回東京都中学校美術教育研究大会、第2ブロック世田谷大会の開催にあたり、関係の皆様方のご尽力とご支援に心より感謝申し上げます。

本会ではこれまで研究大会や研修会を通じて、変化の激しい社会に対応した指導方法の研究・改善に取り組んできました。コロナ禍によって活動に多くの制限が生じましたが、各学校においては先生方が工夫をこらした授業を展開されてきたことと思います。これからの学校教育においては、ウイズコロナに対応した各学校での実践を基に、アフターコロナを見据えて子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を再構成して新たな価値につなげていくことなど、身に付けさせるべき資質・能力をより意識した授業の構築が不可欠です。今まさに研究・研修の重要性がより高まっていると言えます。

本大会では研究テーマを「生き方につながる美術教育」と定め、子供たちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするため、学びの質を重視した美術科の指導の在り方についての提案がなされております。本研究の成果が造形美術教育に関わる多くの皆様に共有され、活用されることを願っております。

大会実行委員長（世田谷区立砧南中学校長） 松永 かおり

---

令和4年度 第39回東京都中学校美術教育研究大会第2ブロック大会が、世田谷区を会場に、新宿区、目黒区、渋谷区の4地区共同で開催できることに、大きな喜びを感じております。

本来ならば学校を会場とし、公開授業を踏まえた協議、全体会の流れとしたかったところですが、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、世田谷区教育総合センターを会場に、ハイブリッド型での実施とさせていただきます。

大会テーマである「生き方につながる美術教育」には、美術教育を通じて、生徒一人一人が社会の担い手として自らが課題に向き合い、判断して行動し、それぞれが思い描く未来を実現できるように、という思いが込められています。本研究大会での発信が源となり、各地区、各学校での中学校美術科の授業力向上に資することができれば幸いです。

結びに、本研究大会の開催に当たり、東京都教育委員会、第2ブロック各区の教育委員会をはじめ、各区中学校長会、関係機関の皆様、ご講演いただく文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の平田朝一先生に心より感謝申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。